考ウえンフェス

第三十四回『性の歴史』とお茶の間の非日常

夢の舞台へ駆け上がれ！
骨の髄までへりくだれ！

弦楽器イルカ⇔友人

第三十四回　『性の歴史』とお茶の間にある非日常～U から G へ～

　ひさしぶり。

　AV女優の『最低。』は読んでいないけど、個人的に興味があるのは、「性の解放」っていうのかな、そういう方向性についてはよく考えるよ。
　性は生物として欠かせない行為どころか、生命の存在意義そのものだから、これを否定することは、あまりにもばかげている。
　そうなんだけど、人間の行為として考えた場合、単に生物としての存在だけはなく、高度な精神を持った存在が、人間なので、生物のルールをそのまま当てはめて考えることはできない 。
　それどころか、そもそも、性を抑圧したからこそ、文明が登場したかもしれない。

　フロイトは「性の抑圧がない文明は存在しない」と言っている。
　フーコーは反論する。性はむしろ管理され、拡大されてた。

　ただ、僕はフロイトの説は、フーコーの説に矛盾しているわけではないと思う。
　ミクロ的にみれば、性が抑圧されていることを見ることができる。
　抑圧された性欲が、無意識の領域に追い込まれて精神病を生むこともあるだろうし、もっとポジティブな例でいえば、性欲が満たされないことから、芸術や建築、学問、ビジネスにエネルギーを注ぐというのは、人間像として、きわめて自然に浮かんでくる。
　性は非常に大きな欲望の対象なので、それだからこそ、社会から隠されているのではないか？
　性をうまくコントロールすることで社会がうまく回ることはないか？
　性が秘密、タブー、忌避されるものとして扱われているのには、暗黙の理由があると思う。
　性には、語られることがない、社会の秘密が隠されているし、性の領域に、言葉が近づいていくと、秘密の力で言葉が排除されるに違いない。
　それが今、存在している社会の仕組みだ。
　性と無意識と社会、そしてITテクノロジー。
　まだまだこの領域は、面白い分野が残されていると思う。

友

第三十四回　『性の歴史』とお茶の間にある非日常～G から Uへ～

　なるほど。今回の引用は『性の歴史』でいいのかな？
　フロイトもフーコーも避けて通ってきた俺に、適切なレクチャーありがとう。おかげでイメージが膨らんだよ。
　でも返信を早々にもらってたのに、こっちがだいぶ遅くなってごめんね。
　ちょっと全く別の件を仕上げるのに時間がかかりました。

「文明が性欲をコントロールして、秩序や統治などに不都合な部分を隠す傾向にあるからこそ、その隠された性を様々なアプローチで語る芸術が存在する」って理屈は、一般的に筋の通る話じゃないかと思う。
　こっから、Uの返信で考えた材料を、いろいろ提示するね。

　まず日本のテレビについて。
　昔は下品なバラエティとか、ホラーやらスプラッタやら性描写やらで若干エログロい映画も、結構放送してたよね。
　でも今は自主規制でだいぶやらなくなった。じゃそれは、「文明が発達したから、性は公的な表舞台からどんどん隠されている」せいなのかっていうと、ちょっと違うと思う。
　単にネットやレンタルがあるから、テレビがそのリスクを取りに行く必要性が薄いんだと思う。テレビにできるギリギリのエログロでも、ネットやレンタルには絶対勝てない。だってテレビでAVまるまる流せないし。リアルな死体も放送できないしさ。
　だからどうせネットやレンタルに勝てないけどリスクだけは高いエログロの分野に、視聴者の苦情を覚悟してまで手を出すような価値は、今はもうないんだと思う。
　お手軽にネットでエログロが際限なく観れる時代だから、テレビの役割だって当然変わる。だけど、俺の感覚では性欲が昔よりオープンにされてる分野はたくさんある。
　例えば「自慰グッズ」とか。an・anの「SEX特集」とか、朝の情報番組の「セックスレス特集」とか。あと男性週刊誌のしつこいまでの「死ぬまでセックス特集」とか「天国に逝けるセックス特集」とか「地獄の鬼とセックス特集」とか、しつこいまでの。
　それに、性の若年化は確実に進行してる気がするし、女児向けマンガ雑誌（男児のコロコロやガンガンにあたるヤツ）も、昔より確実にエグい気がする。今後は「障碍者の性」も朝の情報番組で語られたりすんだろうし。ちなみにこの前「バリバラ」ってEテレ番組の「障碍者のセックス特集」観たけど、エグくて面白かった。
　好むと好まざるとに関わらず、時代が進むほど言葉はあらゆる分野に侵食していく。これはいつの時代も変わらないはず。だって前の人と同じじゃつまらないから。表現は工夫され、芸術も学問もすべて進化／深化し、細分化／多様化する。次々欲しがるのが人間であり、生物だから。欲望というニーズをどこまでも叶えて、商売も儲けようとするし。
　もちろん学者だって、研究して解明するのは理系分野だけじゃなく、人文系の、恋愛も、芸

術も、性欲も、言葉はその真理に限りなく近づこうとするだろう。

　そこを踏まえてね。
　おこがましくも大上段で語らせていただきますけれども、今、文化にとって一つの課題はさ、例えば、エログロをやらない表現（テレビや新聞など）と、際限なくエログロに特化した表現（ネットとかAVとか）が、グレーに混ざらずシロとクロに偏りすぎてるってことかもしれない。
　本来、エログロは日常にあるグレーな部分なのに、例えばR指定とか「これはそういう特集です」ってマエがないと、苦情が来そうって自粛感がどんどん強くなってる。
　いや、もちろん昔からテレビだってエログロは深夜に放送してたし、真昼間から「明日もセックスしてくれるかな~？」っていいともろーな茶の間ではなかったよ。それに現在は、性欲についての真面目でオープンな言葉も増えたと思う。
　ただ、表現が許される場ではとことんクロだけど、許されない場ではまったくのシロ。そういう二極化ルールが現代社会の特徴かもね。子供の遊び場とか。前にも書いたけど、例えば裸族も。もう地球上に裸族はいないらしいけど、服って健康上の理由以外に、日常から性を切り離すって意味合いは強いだろう。
　こういう二極化は結局、洗練化と言い換えることができると思う。台湾のバイクの例でもさ、バイクは道路だけ、歩行者は歩道だけってルールはつまり、交通の二極化であり洗練化だろう。
　そして洗練化ってのは平準化ってことでもあるはずだ。自文化の常識で他者を批判する意味合いの強いSNSの炎上現象も、世界中で見られてる。平準化がイナゴのように世界を侵食してる。
　あ、そういや「炎上」って言葉は暴走族とかと一緒でちょっとカッコいいし、現実には火も煙もまったく出てないから、違う言葉にした方が俺はいいと思う。「誰が何人」って明確な数値的定義もない曖昧な表現だし。既知で地味に「ボヤ騒ぎ」でいいんじゃないかな？
　世間様は幻の炎を懸命に煽って「炎上」って騒いでるけど、視聴率やら売り上げに必死なマッチポンプ式ネタ作りにはもう飽きたよ。

　いろいろ書いたけど、たぶんこれは文化にとってなかなか難しい傾向だろう。
　エログロが生き残る場所として例えば、テレビには深夜って言い訳があるし、映画には年齢制限がある。
　でも例えば歌には、年齢制限や深夜限定とかあんまないから、性的な表現とかはどんどん自粛されたと思う。昭和のアイドル歌謡なんて結構エグい歌詞も多かったのに。この生ぬるさが、もしかしたら歌が売れない一因かもしれないよ。
　ちなみに最近の音楽だと、巷で噂の岡崎体育『MUSIC VIDEO』が面白かった。前に薦めたキュウソネコカミとテイストは一緒だけど、誌的な表現が素敵にあるから、あっという間に売れそう。ただ、電気グルーヴが好きって割には、エログロいエグみはだいぶソフトだから、そこが今言った自粛時代の洗礼なんだと思う。
（ちなみに最近、「女の子は勉強なんかせず、バカでも可愛いければハッピー」みたいな歌詞を

アイドル集団が歌って批判されたみたいだけど、そりゃ、鵜匠にとって鵜は「バカで無自覚で反抗せず、少ない分け前にも関わらず魚をバンバン獲る」のが一番理想だよね。つまり支配層の「おっさんの主張」を、被支配層のアイドルに歌わせてるワケだ。
　でも客だってフェミニズムな発言する進歩的女性像をアイドルに求めちゃないだろうし。アイドル自身も、のし上がるために握手会して歌って踊るワケだし。つまりアイドル文化自体が「バカ可愛い至上主義」って気もするね）

　まとめると、「ドキッ!? 女だらけの」的な、お茶の間にある非日常がなくなって、「お茶の間は日常だけ。お色気は寝室だけ」って時代になってるから、性も含めたありのままのリアルな表現が難しくなってる気がする。
　ここらへんが今後、考えると面白い感じかも？

　さて、今回はこんな感じ。
　ところで最後に、今回遅れた理由なんだけど。
　例えば今後ね、何らかのトラブルで、子供にも大人にも娯楽が一時的になくなって辛いとき、何か楽しいことで、子供たちの笑い声に接して、大人も癒されるような、そんなイメージはどうかなぁ、と。
　んでそのために、お金のかからない簡単な道具で、子供も大人も遊べればいいなと、そういうことを考えてた。

　ここまでの話と脈絡は全くないんだけどね。どうかな？

【2016-05-22】考えるウマシカ～弦楽器イルカと友人の往復書簡より～

http://p.booklog.jp/book/107174

著者：弦楽器イルカ
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/107174

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/107174

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ